

「週刊新潮」で好評連載中の中家会長のコラム「ピンチをチャンスに!」の第31回(4月25日号)掲載分は、「月刊JA」のHPからもご覧いただけます。

中家会長 4月定例会見 会長からのメッセージ

中家会長は4月4日、理事会終了後、定例会見を行いました。「新たな元号『令和』^{れいわ}」が発表されました。出典が歌集『万葉集』の梅花の歌の序文とされ、梅の花にちなんだ元号が選ばれたことは大変、うれしく、地元の和歌山県は日本一の梅の産地であるので、特別な思いをしています」と冒頭のあいさつを述べました。

梅は春の訪れを告げる花です。花は小さいですが、大きな実をつけます。JAグループは自己改革に取り組んでいます。3月の「JA全国大会」でも成果を報告しましたが、大きな実を結べるよう、不断の改革に取り組んでまいります。

平成を振り返ると、日本の農業にとって激動の30年でした。平成が始まる直前のオレンジの自由化合意をはじめ、TPP11、日EU経済連携協定(EPA)など、貿易の自由化、グローバル化が進み、農業・農村、組織・事業・経営、協同組合の「三つの危機」が増幅された30年でもありました。一方で、特に近年、災

害が多発したことにより、協同組合の相互扶助の考え方、取り組みが見直されました。国連が定めた「国際協同組合同年」(2012年)や「家族農業の10年」(2019~28年)など、国際的に評価が高まっています。この動きを追い風にして危機を克服していきたい。

現行の食料・農業・農村基本計画の見直しが行われています。農水省の審議会の議論に参画していますが、いかにわが国の食料安全保障を確立していくのか、この視点を盛り込んでいきたいと思えます。

農業・農村が持続可能になるには、大規模から中小まで多種多様

な担い手が協力し、消費者と連携しながら地域農業を支えていく必要があります。私も地元に戻ると道普請(みちぶしん)など共同作業に参加します。このような助け合いは、農業の維持はもとよりコミュニティーを活性化し、郷土愛が生まれることになると思います。農業は一産業にとどまるものではありません。地方をどう守り、発展させるのか。地域政策の観点も非常に重要で、令和の時代になっても変わることはありません。

会長メッセージはJAグループのウェブサイト (<https://org.ja-group.jp/message>) に掲載しています。

林修先生が旬の農産物を紹介 新番組『四季彩キッチン』

旬の農産物を紹介しながら、最新の農業や食材について、林修先生が解説するテレビ番組『四季彩キッチン』が4月からスタートしました。

キッチンを“彩る情報”を届けるというコンセプトで、毎週月曜日21時54分~22時(フジテレビ・関東地域)、毎週水曜日22時55分~23時(BSフジ・全国)で放送します(放送時間は編成の都合により、変更される場合があります)。番組では、頑張る生産者を通してトピックスを紹介します。これまでの放送は、番組HPでアーカイブ配信しています。https://www.fujitv.co.jp/shikisai_kitchen/

「第28回JA全国大会」を 雑誌とネットメディアで特集

JAグループのウェブサイト「第28回JA全国大会」特設ページを設けました。登壇者のあいさつなど大会式典を動画や写真で紹介するほか、大会決議(PDF)がダウンロードできます(<https://org.ja-group.jp/jataikai>)。『サンデー毎日』(4月14日号)、「東洋経済オンライン」(4月5日アップ)にも特集記事を掲載しました。



大会では展示会場を設置し、JAグループの自己改革の取り組み事例について紹介

「JA営農指導実践全国大会」 活動報告を動画で紹介

営農指導員の取り組みを審査・表彰する「JA営農指導実践全国大会」が2月21~22日に開催されました。全国8ブロックの代表がJAグループの自己改革に関連して、農業者の所得増大や農業生産の拡大につながる活動を報告しました。大会は、『日本農業新聞』をはじめ、39の地方紙でも取り上げられ、メディアから注目を集めました。

JAグループのウェブサイトでは、最優秀賞の和歌山県JA紀州の田中俊史さんをはじめ、審査委員特別賞の青森県JAつがる弘前の鈴木美喜子さんなど8名の活動報告を動画で紹介しています。

<https://agri.ja-group.jp/support/lead>